

会 議 名	第2回富来義務教育学校及び富来地域避難拠点施設整備（案）に係る町民説明会
日 時	令和8年6月19日（金）午後7時から午後8時58分
場 所	富来活性化センター 1階 中ホール
議 事 録	
飯田学校教育課長	それではご案内の時刻となりましたので、皆様には日中のお疲れのところ、第2回富来義務教育学校及び富来地域避難拠点施設整備（案）に係る町民説明会にご参加いただきありがとうございます。ただ今から説明会を始めさせていただきます。それでは開会にあたり、稲岡町長よりご挨拶申し上げます。
稲岡町長	（開会あいさつ） 皆さんこんばんは。町長の稲岡です。本日は日中のお疲れのところ、遅い時間にもかかわらず足をお運びいただき、誠にありがとうございます。皆様には大変ご苦勞をおかけしていることと存じます。とりわけ小学校の子どもたちは現在、中学校の方を間借りして教育を受けているところですが、もともと高校として建てられた建物のため、体の小さな子どもたちには大変不便な校舎になっていると思います。大変不便な教育環境において学びをしていることを本当に心苦しく感じているところですが、そうした中で町としては発災前からの課題であった少子化の中で学校のあり方について検討してきました。発災前に開催された検討委員会の中で、富来地域に1校の小中一貫校が望ましいという答申を受けました。発災後、その答申を生かして私の考えとしまして、この富来地域に教育の場が必要だという判断の下、中学校は被災した校舎ですが、一部改修して使っている状況であり、その場所に小中一貫の義務教育学校を建設することを決定いたしました。令和11年4月開校を目指して準備を進めています。地域の方々に開かれた学校にしたいと考えており、本日はこれまでの進捗をお示ししたいと思います。 現在、基本設計がだいぶ形になってきたと思いますので、本日皆様にご覧いただき、さまざまなご意見を頂戴したいと思っております。これまで2回、義務教育学校に関する説明会を開いてまいりましたが、その中で多くのご意見をいただきました。今回説明するのはハード面が中心ですが、これまでの説明会でいただいたご意見としてはソフト面が多かったかなと思っております。本年9月に、そういったソフト面を主に検討する準備委員会を立ち上げる予定です。ソフト面に関するご意見は、9月に設立される準備委員会で伺い、ワークショップ等も開催してご意見を頂戴したいと考えています。本日は設計事務所の方々にお越しいいただき、これまでの進捗をお話ししたいと思います。今回の次第は前半に学校及び避難拠点施設の整備（案）について、設計事務所の皆様からご説明いただき、その後ハード面に関する意見交換を行いたいと思います。その後、準備委員会についてご説明します。本日は限られた時間ですが、皆様の忌憚のないご意見を頂戴したく、開会の挨拶といたします。本日はよろしくお願いいたします。
飯田学校教育課長	次に本日の出席者を紹介させていただきます。初めに、先ほどご挨拶いただきました稲岡町長です。山森副町長です。間嶋教育長です。花島企画財政課長です。本事業の設計業務を担当しております、株式会社五井建築研究所です。本日の司会を務めさせていただきます、学校教育課長の飯田です。よろしくお願いいたします。 今日の説明会は、多くの町民の皆様にも様子をご覧いただけるよう、後日、志賀町ケーブルテレビの「しかちゃんニュース」で放送する予定です。皆様のプ

	イバシーには十分配慮いたしますので、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。撮影が気になる、写りたくないという方は、近くの職員にお気軽にお声掛けください。また、本日は議員の皆様にもオブザーバーとしてご出席いただいております。誠に申し訳ありませんが、時間の都合上、本日のご紹介は省略させていただきますのでご了承ください。 尚、本日の日程であります、終了時間は午後８時３０分を目安とさせていただきます。 それでは本日の説明会の趣旨についてお話しします。先ほど町長のご挨拶にもありましたが、本事業は現在、基本設計の検討段階にあり、これまでの説明会や教職員との意見交換会、児童生徒へのアンケートなどでいただいたご意見を参考にしながら、ハード面の素案をまとめたものです。 本日の説明会につきましては、現時点での内容を説明し、皆様のご意見を引き続き、今後の設計に生かしたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。 それでは、お手元の次第に沿って進めます。まず初めに設計事業者の紹介を行い、続けて設計（案）の内容説明を行います。五井建築研究所様、よろしくお願い致します。
五井建築研究所所長	（事業説明 富来義務教育学校及び富来地域防災拠点施設整備（案）について） 皆さまこんばんは。今日は説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。五井建築研究所代表の喜多と申します。今回、我々が設計を担当させていただきます。 この義務教育学校で学ぶ子どもたちのために、町民の皆様が目線に沿った設計を行っていきたいと思います。どうぞ改めてよろしくお願い致します。皆さん、我々事務所のことをあまりご存じないと思いますので、簡単に当社の概要を説明したいと思います。弊社は、金沢市問屋町にございます。所員数は現在２８名で、様々な資格を持った専門家がおり、今日は全部で６名がそれぞれの専門分野で参加しています。創業は約７０年前です。金沢において多くの公共施設や民間施設を手掛けてきました。現在も被災地での復旧や復興事業に携わっておりますが、今回の志賀町の義務教育学校と避難拠点施設は、その中でも、非常に大きなプロジェクトということで、会社を上げて取り組んでまいります。 それでは、当社の実績を紹介します。こちらは、皆さんももしかしたらご存じかもしれませんが、羽咋駅前にある「ラクナはくい」というにぎわい創出施設です。こちらの設計を担当しました。いろいろな賞をいただいておりますが、現在も非常に人気があり、多くの子どもたちや市民の皆さんが訪れているとお聞きしています。 次に、これは昨年完成したのですが、石川県の向陽高校の横に併設された、石川県立特別支援高校になります。インクルーシブ、いわゆる障害のある子どもとそうでない子どもと一緒に学べる施設です。一緒に学ぶことで新しく生まれるものを期待したい、そういう学校になっています。 次に、金沢市の玉川公園、玉川図書館の隣に建った金沢市立中央小学校です。かなり規模の大きな学校で、体育館などが地下にあり、駐車場も地下駐車場があります。ちょうど隣に子ども図書館を併設しており、そちらも当社で担当しています。 次に、かほく市の七塚小学校です。こちらは既存の建物を長寿命化改修し、増築した建物です。図書室などを設けることで学校の価値を高める取り組みです。

	次に、かほく市の外日角小学校です。こちらでも長寿命化改修をしております。 次の、金沢工業大学の国際高等専門学校は、皆さんがスキーで行かれたことがある白山瀬女高原の近くにあります。その前はんぼの郷という施設があり、その敷地内に建設されたキャンパスです。こちらの設計を一式、当社で担当しました。 次に、石川県立金沢桜丘高校です。こちらは丘の上にあり、設計を当社で担当しました。 それから、七尾市立山王小学校です。こちらは建設してからもう10年ほど経ちます。新築で建設を行いました。 それから、金沢錦丘高校です。 それから、小松市にある芦城小学校も、新築で建設させていただきました。以上、学校建築を中心に実績を紹介させていただきました。弊社は学校ばかりを手がけているわけではなく、いろいろな施設を担当しています。いろいろな施設を手掛けることで、今回も学校に避難拠点施設があり、その中で町民の皆様が賑わいを取り戻すために何をすればよいか、どんなものなら皆さんや子どもたちが喜び、ここから復興の芽が出てくるのかを考えながら設計を進めています。それでは、施設の内容・概要について担当の方からご説明します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、今回の内容についてご説明します。
五井建築研究所設計者	今回の内容についてご説明します。 まず配置計画、平面計画、内容、パース、最後にスケジュール等を説明し、およそ30分間いただいて説明します。よろしくお願いいたします。 まず配置計画についてです。こちらが全体の配置計画で、青で示している部分が既存の校舎の位置になります。 今回、配置する場所は既存の建物を避けた、現在のグラウンドとテニスコートのある場所に計画します。今回の計画に伴い、領家町八幡線が東側に延長されます。東に行くにつれて坂を上っていく形になるのですが、その道路と今回の敷地がちょうどフラットでつながる部分に、新しく正門を計画します。 正門に近い場所に義務教育学校を配置します。また、現在の仮設住宅の場所に拠点施設の駐車場を計画します。駐車場に近い地域に避難拠点施設を配置します。ハの字に配置する避難拠点と義務教育学校を結ぶ「寄り合いの道」として通路を設け、中央に「富来っこ広場」と呼ばれる多目的広場を設けます。こちらは学校の行事や地域のイベント、災害時には炊き出し等の拠点としても使える多目的広場になっています。 ハの字の反対側には職員用駐車場を設けます。二つの建物を建ててから既存の校舎を解体し、解体した場所にはグラウンドとテニスコートを計画しています。 次に、動線計画になります。敷地内の薄く茶色く塗った部分、こちらは主に歩道を表現しています。薄いグレーの部分、こちらが駐車場を表現しています。敷地内は基本的には歩車分離を図っておりまして、生徒や地域の方々が安全に敷地内を行き来できるような形で計画しています。動線について、義務教育学校ですが、こちら正門から入りまして、歩いて登校するような形。それから、ほとんどの方がバス通学という形で聞いております。こちらにバスが到着して、そのまま登校するような形、これが学校のメインのアプローチかなと考えてございます。あと、拠点施設についてなんですけれども、こちらに駐車場がございますので、車を停めてアクセスするような形、保育園側から歩いてくる形、学校が終わ

って生徒たちが「寄り合いの道」を通してアクセスする形などが考えられます。

次に車についてですが、車も正門から入ってそのままアクセスする形と、保育園側から入ってアクセスする形の二通りを想定しています。北から南まで、ずっと敷地内を通れるように計画しています。今後、災害があった場合、地震で片方の道路が分断されたとしても、もう片方から避難拠点施設や物資を搬入できるなど、そういったメリットを考えて、このような構成としています。その他、配置計画のポイントとしては、まず、セキュリティ対策です。学校の昇降口横に守衛事務室を配置して、来校者を目視で確認できるように考えています。また、常時施錠対応し、来客はインターホンおよび電気開錠で対応します。

また、敷地内の要所および各出入口には防犯カメラを設置し、敷地内に死角のないように検討しています。災害時の建物開錠に備え、避難拠点施設および義務教育学校のメイン玄関付近に災害時緊急ボックスを設置しています。これは金属製のA4からA3サイズくらいのボックスです。その中に学校や避難施設の鍵、災害時の運用マニュアル等を入れておきます。暗証番号等で開錠できたり、震度6以上の地震で自動的に開いたりするようにして、災害時にガラスを割らなくても鍵で開錠して入れるようにする予定です。また、津波災害時の避難については、地震発生から津波到達までが数分の場合、この場合は避難拠点施設の階段、内部階段と外部階段から屋上の高所避難スペースへ避難できるように考えています。地震発生から津波到達まで時間がある場合は、一度外に出ていただき、皆さんが集まった後に敷地東側の階段を使って移動していただきます。その階段を使って高台のように避難する、そういった形で考えています。これが全体のイメージになります。こちらが正門で、正門から入って「寄り合いの道」を通して避難拠点の方に向かう形となっております。中央には「富来っこ広場」を設け、左側が拠点施設の駐車場を示しています。次に平面計画を説明します。まず、義務教育学校の特徴についてです。「富来っこラボ」を中心とした学習環境で、「富来っこラボ」は学校の中心に位置するラーニングセンターです。子どもたちの探求活動を支える図書館機能を併せ持つ学びの拠点です。空間は1階と2階の中央に中2階の高さで設け、学校全体を見渡せる学びの展望台となる位置付けです。低学年から高学年までが自然に行き交う、開放的で立体的な学習環境を形成しています。また、学校と防災地域利用の両立のため、地域開放エリアと教室エリアを明確に区分し、災害時は避難区画として、平常時は地域の生涯学習の場として活用します。

こちらが学校の1階の平面図です。中央はエントランスホールで、入る前に大屋根広場を設けました。こちらはピロティ空間になっており、雨や雪に濡れずに登下校をできるような室内です。

エントランスホールから入って正面に、「富来っこラボ」が設置されています。「富来っこラボ」は中2階の高さに設置されており、その下部はすべて教員用の倉庫、物品庫、作業スペースなどとして使われます。エントランスホールの左側は守衛事務室です。グラウンドの管理や登下校の様子の確認、来客対応、防犯対策を行えるようにしています。エントランスホールから入って右側は特別支援教室で、4室確保しています。

クラスルーム中央にトイレ空間が設けられています。前期4年ということで、1年生から4年生までのクラスルームが配置されています。クラスルーム前には、それぞれワークスペースと呼ばれる広めの空間が設けられています。こちらはクラスルームとして延長可能な多目的スペースになっています。クラスルー

ムの外、こちらテラスに直接出ることができ、そのまま菜園にもつながっている、とても明るく開放的な空間となっています。また、これらのクラスルームはすべて南面しているため、明るく開放的な空間となっています。奥にはプレイルームを想定しています。こちらは低学年専用の遊び場兼集会室として考えています。「富来っこラボ」から左側の赤く囲まれた部分が、特別教室エリアで地域解放エリアになっています。こちら2か所から特別教室エリアへ行くことができ、一番奥に保健室が配置してあります。保健室はグラウンド側から直接入れる位置にあり、体育館からも近い位置、救急車が直接寄せられてそのまま対応できる場所に配置してあります。保健室の横には相談室が確保してあります。こちらは、保健室登校の児童や、昇降口から登校しづらい子たちのための部屋です。隣に地域開放玄関と職員玄関を設け、その並びにバス運転手の控室、トイレ、配膳室を配置しています。

配膳室にはダムベーターを設けており、2階にも配膳できる計画です。その並びにランチルームと家庭科室を設けています。これらは一体利用も可能で、災害時には炊き出しを行い、そのまま食事ができるように考えています。

その奥には理科室が2つと会議室が設けてあります。会議室は地域開放エリアにあり、地域の皆様が会議や集会など様々な用途で利用できると考えています。

次に、学校の2階について説明します。校舎中央に「富来っこラボ」を設けてあります。「富来っこラボ」の下側はちょうどエントランスの上になっており、職員室を設けています。職員室からはグラウンドや登下校の様子が見え、来客の行き来も確認できます。また、吹き抜けを介して各クラスルームも確認できるよう、中央に職員室を配置しています。職員室に面して管理者室も設けています。校長応接室、職員用の会議室、職員更衣室、生徒会室、放送室といったものを管理者室としてまとめて配置してあります。

その職員室の横に、後期2年にあたる中学2年と3年、つまり8年生と9年生の教室を設けています。その間にトイレを設けています。上の階には、中期3年にあたる5年生、6年生、7年生の教室を設けています。2階についてはプレイルームではなく、間に多目的教室も設けており、様々な教育に対応できる環境を整えています。クラスルームの左側には、特別教室の地域開放エリアがあります。特別教室の上の方から、音楽室、図工・美術室、技術・プログラミング室を用意しています。また、その間に静かな部屋やラウンジ等を設けています。

「富来っこラボ」はオープンな図書空間になりますので、静かな部屋や壁に囲まれた静かに学習できる空間も設け、各シーンに応じて様々な学習環境を用意しています。特別教室棟から上に行くと渡り廊下があり、そこから2階の体育館へ移動するようになっていきます。これが校舎内のイメージで、「富来っこラボ」のイメージ図になります。職員室から「富来っこラボ」を眺めたような形で、中2階の「富来っこラボ」や1階、2階の様子がすべて開放的に見える空間になっています。

一番上の北側のハイサイドライトから常時平均的な光が入り、常に明るく開放的な空間を作り出しています。内部空間については、できるだけ県産材を使い、ぬくもりのある暖かい空間となるよう配慮します。

次に、避難拠点施設のご説明をさせていただきます。まず特徴ですが、みんなで高める地域の防災力ということで、町民を対象とした防災訓練や防災教室、防災士向けの研修会などを通じて地域全体の防災意識と対応力の向上を図る、そ

のようなソフトを考えています。また、エントランスホール「よりあいのみち」ということで、1階のエントランスホールは災害時だけでなく、普段から地域に開かれた多目的な空間としてご用意しています。図書ラウンジとして本に親しんだり、カフェのようにくつろいだり、学習スペースとして静かに過ごしたりと、様々な使い方ができます。誰でも自由に立ち寄れる、地域住民の交流や日常の居場所となる開かれた場を目指しています。

大ホールと小ホールは可動間仕切りで、大小4つのホールに分割可能なホールを用意しています。防災教室、地域イベント及び文化講座などに利用できる想定です。あと備蓄倉庫になります。今回の避難拠点施設への避難者の備蓄や、富来地域に指定避難所がありますが、備蓄倉庫が整備されていない箇所もありますので、そちらの備蓄もできる広さを確保しています。

放課後児童クラブとして、利用児童26名分の大きさを確保しています。保育室、事務室のほか、専用の更衣室とトイレ等を設置しています。キッズスペースは、幼児から小学生までを対象に、年齢に応じた遊びのスペースを確保しています。災害時は子育て世帯の避難場所として利用できるように考えています。こちらは避難拠点施設の1階の平面図です。左側が拠点施設の駐車場で、左側がメインのエントランスです。また、学校側からもエントランスを設け、2か所からアクセスできるようにしています。薄い茶色で塗られた部分がエントランスホール、図書ラウンジになります。図書の本棚で囲まれ、テーブルや椅子、ソファなどが置かれた、自由に使える空間をイメージしています。弊社で設計した「ラクナはくい」の1階も同じような形なので、こういった空間をイメージしていただけると分かりやすいと思います。左側のエントランスに入ってすぐ近くに受付を設置しています。ここから玄関と中央のエントランスホールを目視で管理できるよう配置しています。すぐ後ろにキッズスペースを配置しており、走り回れる広いスペースと、乳幼児がゆったり遊べる小さな遊具など、性格の異なる遊び場を用意しています。授乳室や家族トイレも用意しています。

受付から右手にカフェを設ける予定です。詳細は未定ですが、ソフトドリンクや軽食を提供し、ドリンクを飲みながら本を読んだり学習したりできるように考えています。その隣に学習スペースを用意しています。エントランスホールはオープンな学習スペースと考えてください。本棚と壁で囲まれた、少し落ち着いた学習スペースです。地域住民や近隣の学生が勉強できるような空間を想定しています。

学校側のエントランスを入ってすぐ右側に、2階の体育館へ行く階段とエレベーターを設けています。こちらは、平日は学校が行われているため、学校側には入れないようにシャッターを下ろし、エレベーターは鍵で施錠して、人が入れないように防犯対策を講じています。その右側に児童クラブを用意しており、専用更衣室やトイレ等を設けています。その並びに洗濯室を設けています。こちらは児童クラブで汚れたものを洗ったり、避難拠点として使った場合に避難者が使える洗濯場となっています。

奥には大ホール・小ホールを用意しており、可動間仕切りで4つに分割できるように考えています。その並びで更衣室とシャワーを用意しており、例えばヨガ教室や体操教室のときに着替えたり汗をかいたらシャワーを使ったりする形を想定しています。また避難の際に、避難された方がシャワーとして使えるようにも考えています。建物中央にはトイレを用意しています。平日利用やイベント利用、避難時の利用でもストレスを感じない程度の設備を配置するように考えて

	います。 その隣に調理室を設け、平日は地域住民の料理教室などを開くことを想定していますが、災害時は、焚き出しの場として活用し、大ホールや小ホールで食事を提供するなどの形で考えています。一番奥に備蓄倉庫を用意しています。こちらは外から直接トラックで搬入できるようにしており、一部ピロティ空間になっています。荷捌き場や物資の一時保管庫として使えるような広いスペースを確保しています。 入り口に近い位置にスタッフ・ボランティア室をご用意しています。災害時には司令室として使う部屋ですが、平日使わない時は多目的室として利用できるように考えています。 次に2階の説明です。2階は主に学校用途となります。右下の方からミーティングルーム、トレーニングルーム、柔道場、部室、機械庫等を設けており、中央には更衣室とトイレを設けてあります。また黄色い大きな部分はアリーナで、バスケットコート二面分の広さがあり、天井高は梁下で約10.5メートル確保しています。 一番奥にはステージと両隣に器具庫を配置しています。手前にキッズスペースの吹き抜けがありますが、キッズスペースは天井高の高い開放的な空間になっています。また、アリーナ2階から内部階段を通して屋上に出られるように計画しています。 避難拠点施設は外部階段で屋上に上られるようにしています。海拔から約15～16メートルで、ビル換算だと約4階分に相当します。1平方メートルあたり1～2人で換算すると、約300名から600名が避難できる想定です。 学校2階にも屋上へ行ける階段を設けており、こちらからも生徒が有事の際に屋上へ避難できるようにしています。以上で平面図の説明は終わります。 次に学校施設のスケジュールについてご説明します。 だいたい6月いっぱいまで基本計画を終える予定です。その後、実施設計に入ります。実施設計は6か月で、大体年末になります。それが期限となっております。その後、積算期間を含めて建物を建てる各種申請を経て、令和9年の7月ごろを工事開始の目安としています。 工事はおおよそ18か月、1年半を見込んでおり、建物の完成は令和10年12月末を想定しています。その後、既存の建物から学校備品等を移転して開校準備を行い、令和11年4月の開校を予定しています。 引っ越し後に既存建物の解体工事が始まります。それを6ヶ月見込んでおり、その後に新しいグラウンドと外構整備を行います。全体が完成するのは令和12年3月頃を目途に計画を進めております。以上がスケジュールの説明です。 これで今回の内容のご説明を終わります。ありがとうございました。
飯田学校教育課長	（意見交換） それでは意見交換に移らせていただきます。今回の説明会は、保護者と住民の皆様を区別せずに開催しました。限られた時間ではありますが、できるだけ多くの皆様のご意見・ご質問を受けたいと考えております。本日は保育園および学校の保護者の方からご意見を受け付けたいと思います。 つきましては、お一人につきご発言は原則一点とさせていただき、追加のご意見やご質問がある場合は、改めて挙手をお願いします。ご発言の際には職員がマイクをお持ちしますのでお手を上げてお名前を言っていただき、簡潔にご発言をお願いいたします。それでは保護者の方、ご質問・ご意見ございませんか。

参加者	災害時の子どもたちの引き渡しについてですが、東日本大震災の時は非常に困難だったと聞いており、このようなパニック状態のときに、うちの地震の時は休みでしたが、そのときの受け渡し場所、例えば教室や隣の災害拠点の施設など、どこを受け渡し場所にしてどう運用すればスムーズにできるか、そこら辺が心配になっております。そのとき、一般の方とごっちゃになることがあります。外部侵入者と言うと失礼かもしれませんが、一般の方とトラブルが起きないように、スムーズに対応できるかが問題です。そういう体制も整っているのかをお聞きしたいです。
五井建築研究所所長	災害時の子どもたち、生徒の受け渡しと仰いましたが、いわゆる保護者が迎えに来る場所ということでしょうか。かつ、一般の避難者とちゃんと分かれて整備されて、名簿を見ながら保護者の確認をして、無事に返すことができるかどうか、そういう場所だと思います。おそらく運用面での話になるかと思いますが、実際には、先生方のご対応になるかとは思いますが、子どもたちは災害時には学校で避難することに多分なるといいますので、おそらくそのまま、例えば1日ぐらい、もしくは長期に渡る場合もあるかと思いますが、基本的には学校で生徒を保護者の皆さんに無事にお返しすることになると思います。 その場所が具体的にこの学校の施設のどこであるかについては、そこまでの想定はできておりませんので、先生方のほうで、例えばランチルームなど、ある程度のスペースが必要だと思います。そういった場所でメモを見ながら確認してお子さんをお渡しすることになるかと思います。
参加者	はい、わかりました。ありがとうございます。
間嶋教育長	補足させていただきます。現在の富来小中学校については、各校ごとに引渡しのマニュアル・計画が整備されており、それに従って年に1回訓練も実施していますので、この施設が完成しましたら、施設と避難状況に合わせた新しい対応マニュアルのようなものを作り、対応させていただきたいと考えております。
飯田学校教育課長	それでは、次の方、ございませんでしょうか。
参加者	このスケジュールでは、避難拠点と学校を合わせて1年半で完成し、その後グラウンド整備となっていますが、グラウンドに設置される遊具は、グラウンド整備後に設置するという認識でよいでしょうか。
五井建築研究所設計者	外構のスケジュールの中で、アプローチ広場駐車場があり、これは学校と同時に仕上がるように考えています。大まかに言うと、この色の付いたところを先に仕上げる予定です。既存の校舎はここにありますので、それが建っている中でこの建物を作って、アプローチや駐車場など、学校と拠点が使えるような外構までを仕上げる予定で考えております。ですので、こうしたところにある遊具やブランコ、滑り台、菜園などは、学校とこの拠点の建物ができると同時に完成させる想定でおります。
参加者	ありがとうございます。
間嶋教育長	補足させていただきます。遊具関係についてですが、後ほど準備委員会の話をさせていただきます。その準備委員会の中に施設整備部会を設けます。施設整備部会で、現在既存の遊具で使えるものと、どのような遊具を新しく設置するべきかを検討させていただきます。 新しく設置するものや移設するものを決定し、どの場所に配置するかを施設

	整備部会でも検討していきたいと考えております。
飯田学校教育課長	それでは、引き続きご発言のある方はいらっしゃいませんか。それでは保護者の方でご質問がないようでしたら、地域の方でご質問がありましたらお願いします。
参加者	全館冷暖房付きでしたよね。前提にして質問するわけではないですが、今、子どもたちの間で不登校の子がいて、学校まではたどり着くけれども教室に入れない子がいると聞いています。そのためのスペースは、先程の説明どおり「多目的室」ということなのか、それとも特別支援で3つほど用意されている場所を利用するのか、そのあたりはどうなっているのでしょうか。
五井建築研究所設計者	保健室の横に相談室が2部屋用意してあります。その横に職員用の出入口があり、そこからすぐ入れる小さな部屋が2つあります。前面の特別支援学級とは別に、エントランスホールの横にあるのは、肢体不自由や知的障害などの特別支援が必要な子どもたちが入る場所です。
飯田学校教育課長	全館冷暖完備でよろしいですね？
五井建築研究所設計者	基本的には教室や、子どもたちや先生が常時入れる部屋は冷暖房を入れる予定です。体育館も入れます。
飯田学校教育課長	ありがとうございました。他に地域の方でご意見はありますか。
参加者	避難拠点施設について質問です。避難拠点施設の位置づけは避難所という扱いでしょうか。もし避難所という扱いであったとすると、私は過去に震災のとき富来中学校の校長をしており、地域住民の方がとにかく体育館で寒く、教室に入らせてくれということで全ての教室に避難者の方が入りました。拠点施設の大ホール・小ホールで避難された方が数日間寝泊まりできるような環境になっているのかどうかをお聞きしたいのですが。
花島企画財政課長	企画財政課です。避難拠点施設につきましては、富来地域の拠点となる施設という位置付けになります。ですが、各地区にも指定避難所は、各地区1か所以上は設けるということで今の防災計画を見直ししておりますので地区には必ず1か所以上はある。さらに、この拠点となる防災備蓄倉庫も備えた核となる施設を今回設けるという位置付けのものです。 大規模災害時には多くの避難者を収容できる施設として備蓄倉庫も備え、隣接する学校も一部避難所として使用します。今回の資料に避難者の収容人数も示されています。避難拠点施設では288名から320名、学校の避難については56名収容で、最大376名を収容できる規模を想定しています。 あくまでも大規模災害時の避難所としての機能を想定しています。大規模災害がない場合は何も使わない施設にするわけにはいかないので、有効に活用します。平時は町民が利用できる生涯学習機能を備えた施設とし、2階については小学校の体育館、そして、1階には学童保育の施設もあり、保護者の皆様から要望の多かった雨天時や、最近の猛暑で暑い日でも屋内の涼しい場所で子どもたちを遊ばせられるキッズスペースを設けるなど複合施設として有効な施設を検討していただきました。
五井建築研究所所長	先ほど、多分、空調等があるのかということかと思いましたが、先ほどお答えしたように体育館の方にもございますし、ホールの方にも空調を備えておりますので、避難所となっているエリアについては基本的に空調があるとお考えい

	ただいて結構です。
参加者	ただ今回、富来地域、志賀町は停電しなかったのですが、停電するとエアコンは全く機能しませんよね。非常用電源などの構想はあるのかお聞きしたいです。
五井建築研究所所長	最低でも3日間のエネルギーを蓄え、発電機を設けて空調を維持できるように考えています。
参加者	ありがとうございます。
飯田学校教育課長	それでは、他にございませんでしょうか。
参加者	環境衛生の面からお尋ねします。地震の日、私は先程の先生のところ（富来中学校）に避難しておりました。元旦の日の避難者は286人ほどだったと思います。ここにある避難拠点の大ホールと小ホールについてですが、空調があるとして、このような作り（説明会の会場である中ホールを指す）になっていますか。 実は、今、避難した学校には高窓があり、私は学校環境衛生を担当しているので、その夜は換気のために高窓を開けました。こちらの避難所では、新型コロナウイルスもインフルエンザも発生しませんでした。それと、お手洗いはその日の晩から災害トイレを設置しました。 1階のトイレの一部に足洗い場のような場所があったので、排泄物を入れた袋をそこにすべて積み上げてもらいました。他を汚染しないよう配慮しました。なのでこの避難所では感染症の流行は起きませんでした。しかし、同じような作りの別の避難所ではコロナが蔓延して、隔離病棟になっていました。空調で空気を循環させると、感染者を増やすだけになってしまいます。その点の配慮がされた建物でしょうか。換気を適切にしておかないと感染が広がりかねません。その点についてお尋ねしたいです。
五井建築研究所所長	災害時の避難所での感染症の防止という観点で今、大ホール・小ホール2階の体育館についても換気ができるような窓をしっかりと設けております。今のお話で、停電になったときに空調や換気がすべて止まってしまうと困ると思いますので、災害時にも非常電源で換気をしっかりと回せるように考えていきたいと思っています。それから、例えばトイレの問題等についても、今回、我々のこの計画では高架水槽というもので、建物の屋上に水槽を設けています。なぜ上に設けているのかと言いますと、そこに一旦水を貯めて、トイレの水はある程度の水圧が必要になるため、高いところであればその水圧が確保できるということで、高架水槽を設置します。 あと水の量ですが、上水道が止まったときに供給が絶たれてしまうので、高架水槽に避難者の人数分の水を備蓄します。3日間必要な生活用水としての容量を確保いたします。 もう一つ、トイレが使えなくなる要因がありまして、下水道が止まる場合があります。例えば洪水などで下水が止まり、水が流せなくなる場合です。この施設内のトイレには、地下に緊急用の水槽を設置し、一時的に汚水を貯められるようにします。普段は流さないため、3日分貯められる容量を確保して、最終的には汲み取りをしていただくこととなりますが、それでも上の水槽からの水を使って流すことができ、一時的に外に流さずに貯められます。水洗トイレを維持しつつ、衛生面にも配慮することを考えています。以上です。
参加者	ありがとうございます。もう一つだけ。実は学校の薬剤師は水質検査も行っており、前の中学校、今取り壊した前の中学校は高いところにあり、高架水槽でし

	た。２００７年の地震のときに高架水槽が壊れて、下にあった体育館が水に浸かり、プールのようになっていました。その点は大丈夫でしょうか。
五井建築研究所所長	現在、設備機器類の耐震基準がかなり厳しくなっており、水槽の設置についても建物と同様に地震に耐える強度のものを設置することになっています。それについては、建物が倒れたときに一緒に倒れますが、まずないと考えていただければ結構です。
参加者	ありがとうございます。
飯田学校教育課長	ありがとうございました。他にご質問ありますか。
参加者	すごくオープンに開かれた、素敵な学校だと思っています。２階に静かな部屋があり、読書や学習ができる部屋として設定されていると思いますが、隣はラウンジで本を読めるスペースなのかなと思います。ただ、音楽室の横にあり、どんなふうに遮音というか、そういう環境で何人くらい入れるスペースになっているのかが気になりました。ホームページに出ている子どもたちのアンケート結果にも、静かに読書や勉強ができる場所が欲しいとありましたので、そのような場所になっていればいいなと思っています。お願いします。
五井建築研究所設計者	静かな部屋は音楽室に接していますが、音楽室に前室があり、二重の扉になっています。音楽室から廊下へ音が漏れないよう、二重扉の前室があり、それにほとんど接しています。 あと少し音楽室があるのですが、ここは遮音の壁をしっかりと作りますので、この音に関しては大丈夫だと考えております。この部屋の広さは６人用テーブルが２つほど入りますので、１２人ぐらい入ります。ラウンジも同様に６人用テーブルが２つほど入るスペースとなっております。以上です。
飯田学校教育課長	ありがとうございました。他にご質問ありますか。
参加者	今回は建物に関してなんですけど、志賀原発がありますので、今回の震災のときも多くの問い合わせがありました。その点で、建物自体が原子力災害に対応しているかどうか気になっています。 もし分かる範囲であればご説明をお願いしたいです。
山森副町長	原子力の陽圧とか影響とかそういったことを仰っているのかと思うのですが、そういった建物ではございません。
参加者	発災時に原子力から逃げ延びるための建物ではないという認識でよろしいでしょうか。
稲岡町長	ご質問は、町内に１０か所ある防護施設のことかと思いますが、こちらの施設は今、副町長が説明した通り、放射性物質を遮断する鉛のカーテンや、陽圧化によって放射性物質が入らない仕組みにはなっていません。こちらの施設は、避難に時間がかかる方のための収容能力しか用意しておらず、全員が何日も放射性物質から身を守るための施設ではありません。 今の建物は、現行基準の震度６強まで耐えられる構造になっておりますし、屋内待避というのは、放射性プルームと呼ばれる放射性物質を含んだ空気の塊が飛んでいないときに退避するまでで、陽圧化や鉛カーテンまでの防護性は、ほとんどの施設で用意できないのが現状です。
参加者	ありがとうございます。一応範囲外なので、建物はそういう基準になっていませんが、風向きなどで放射性物質は周囲に舞うということで、その点は考慮され

	ていないという理解でよいですか。
稲岡町長	その風向きで動くのが、先ほど説明した放射性プルームですが、モニタリングポストで現在どの位置にあるか、どの流れになるかを把握した上で、今このタイミングで避難してくださいという避難情報を出して、プルームが来ないときに避難するというのが原子力災害時の対応です。 詳細については、今年開催される原子力防災訓練でさらに詳しく説明があると思いますが、これまでの訓練は放射性プルームから身を守る本来の時間軸を短縮して半日で行ってきたため、放射性プルームや放射性物質から身を守る方法は、これまで現実から少し離れたやり方だったのではないかと思います。 今年開催される訓練は現実には即した内容になると思うので、理解がさらに深まると思います。そちらで詳しく説明させていただきたいと思います。
参加者	ありがとうございます。
飯田学校教育課長	ありがとうございました。他にご質問ありますか。
参加者	今の件ですが、屋外の運動場で子どもたちが運動しているときに事故が起きた。いち早くそれを測定するものが施設にあれば、早く少なくとも屋内に呼び込むことができると思うのですが、セシウムを測定する機械はないのですか。あれば設置してほしいと申し上げているだけです。 私の経験を申し上げます。東日本大震災のときに東京湾にセシウムが入ってきた。そのときは屋外で運動することをやめてくれと言うので全部ストップすることがかなり続いたんですよ。結果としてそれが良かったか悪かったかという問題ではなく、事前にそう言われないうようにプロテクトする方法はないのかと、結局、気象庁かどこかの発表を待って運動をすべきかどうかを判断するということがあるのですね。原発事故はあってはならないことですが、安心安全の観点から事前に対策ができれば子どもたちを守ることができるのではないかと思います。思いで発言しました。
飯田学校教育課長	学校教育課長の飯田ですけれども、原子力発電所に何かあった場合、先ほど言われたプルームが発生した場合は、県内30数か所、発電所を中心に観測地点があります。それは町や県の危機対策課でも把握しています。その状況を見て「ここに入っているから外へ出るな」といった指示は出せると思います。現状、原子力防災センターが10数か所ありますが、そこに設置されている機器はピンポイントの話なので、そこで感知してからでは遅いです。ですので、県の方で37、38あったと思いますが、全体の観測を見ながら対応しますので、ご心配されることはないかと。
参加者	地理的な事故が起こりうるので、そうした点も含めて対応していただきたいと思います。
飯田学校教育課長	発電所内にも監視器が多数あり、県内にも多く設置されていますので、監視は行われています。これらは電力が設置したものではなく県が設置したものですから、監視は継続しています。
参加者	ここの全体配置図にもありますし、鳥瞰イメージ図にもイメージとして載っているんですが、ここにある都市計画道路領家町八幡線改良事業、この事業については五井建設さんが関係されているのか、行政の方で進められる予定なのかわからないんですけど、ここら辺の概要というか、期間などが分かっていたら、この場で言える範囲で結構です。都市計画道路というと町道になるのか、県

	道になるのか、分かる範囲でお願いします。
飯田学校教育課長	こちらはまち整備課の担当ですが、学校と絡んだ補助事業で進めています。先ほどもありました建物の工事をするにあたり、既存の学校から仮設の道路は付けますが、大型車はなかなか入っていきなくなりますので、現在も用地買収を進めています。その用地買収が終わりまして、1軒、立ち退きをお願いしなければならない家がありますので、そこが移動されたらすぐ前の角までだったか、工場のところまで大規模工事を行います。今、示している鳥瞰図の方は第1期工事が終了したまでとなっておりますが、その後、2期工事として、カドリール工場跡地からADエンジニアリング前の通りまでをつなぐ予定です。工事と並行して上水道と下水道も整備していくので、それも国の補助金の対象になります。単年度で一度に進められないので、2年かけて整備していく予定となっております。
参加者	私、ちょうど地元ですから前から測量されているのを見えていますし、興味があって質問させてください。ここが第1期工事になるんですか、このカドリールさん。
飯田学校教育課長	今の地権者のところから、あそこの直線が第1期工事です。
参加者	今の中学校は横切る感じで、ずっとカドリールを上がっていくということですか。
飯田学校教育課長	今の中学校前に住宅がありましたよね。あそこよりもう少し、本当に地権者の真上です。その真上をカドリールの上を直線で上がっていきます。
参加者	その用地買収を今、進めているというのは、あそこをよく知っている人なら分かると思いますが、ここはすべて富来領家町の区有地になっているので、そここの話を進めて、それで用地買収が決まって、それで拡張工事がいつから始まるかを一番知りたいのですが。
飯田学校教育課長	用地買収の方は今、交渉していると聞いています。その地権者がどなたかというのを私は知りませんが、まち整備課の方で全部把握して、地権者の方に測量してよろしいか許可を得て敷地に入っております。工事の開始時期については私も分かりかねます。
参加者	地権者のことはよく知っている人なので、特にいつから始まるのか、用地買収も含めていつから始まるのかという点に興味があり、確認させていただきます。中学校の件は同時に始まるわけではないんですか。
飯田学校教育課長	先に中学校前にあった住宅のあたりに仮設道路を作ると聞いています。
参加者	来年、令和9年7月から約18か月、この辺りから始まるということですか。地権者や地元の区、近所の方について、私は特に関心があるのですが、そういった説明は今回のような場であるのでしょうか。
飯田学校教育課長	担当課にご意見を伝えておきます。
参加者	決まりなどが分かりましたら、教えていただきたいです。よろしくお願いします。
参加者	このスケジュールを見たところ、中学校では陸上競技や女子のテニス、学校の体育の授業、校外での活動があり、このスケジュールだと開校が11年4月になっていて、約2年くらいは外での生徒の活動ができないというスケジュールに

	見えるのですが、この点をご説明いただけないでしょうか。
間嶋教育長	予定表について、その期間は運動場が使えない状態になります。代替として町の陸上競技場とかを考えておりますし、それらの方法をまた考えていきたいと考えております。
参加者	五井建築さんに質問します。2階平面図400分の1、このページで職員室の位置ですよね。今ほどの説明では、グラウンドが一望できるというふうに言われたと思うのですが、鳥瞰イメージに出していただけますか、これで見ると、子ども広場でしょうか、確かあったかと思うんですけども、そこは死角になるんじゃないかなという気がします。 富来っこ広場ですか。今の鳥瞰図の子ども受け渡しの場所の中央あたりが職員室になるかと思うんですよね。その横は校長室や会議室で、そこらは見えないようになってますよね。右側の方向です。富来っこ広場は見えないですね。低学年の子どもたちがいれば、あえてこの富来っこ広場で遊ぶのではないかと思います。それを一番角にもってくれば、グラウンドが一望できて非常に良いのではないかと。職員室から全体のグラウンドが見渡せることは大事だと思います。 私は職業柄、かつて体育の教員をしていたので、本来なら体育館のホールにも体育教官室があり、フロア全体が見えるといいと思います。学校の体制としては、体育の先生も中学校の場合は第1職員室で、他の先生方と一緒にいることが多いですが、県立高校の場合は大体、体育教官室があり、体育館が一望できます。一番建設上まずいのは、グラウンドが見えない体育教官室だと考えています。その点はどうでしょうか。
五井建築研究所設計者	おっしゃる通り、左下の方は運動場として見えにくくなっていると思います。ここの配置にした理由は、今、中では、富来っこラボという教養空間、図書室を兼ねた教養空間、教室群と特別教室を全体が見やすく管理しやすい位置に配置しており、こちらがアプローチ空間になっています。 子どもたちの通学の状況、スクールバスが来たり、歩いてきたりする様子がここから見やすいという理由で、ここに配置していましたが、おっしゃる通り、運動場の方も、もう少し検討すべきだと考えています。
参加者	一番まずいのは、事故があったときに直ちに対応できず、気づかないことです。これは大きな問題になります。本当に。事故があった場合に先生方が気づいて救急車を呼べるかどうか、事故後にその点が問題になることが多々ある。
五井建築研究所所長	グラウンドに向けては監視カメラ等も設けているが、それがすぐに見られるかと言われると、監視はできる状況にしています。
参加者	今の志賀中学校は職員室からグラウンドが見えないんです。いつも廊下から2人体制でずっとグラウンドを見ていました。私が夏休みに見学に行ったとき、カメラで不審者と間違われて教頭がでてきました。
飯田学校教育課長	時間も参りましたので最後のご意見とさせていただきます。
参加者	津波の話を少し質問させてもらいます。高所避難スペースのフロアレベル、海拔15、6メートルという設定なんですけれども、どういう議論があって、そういう設定にされたのかというのを教えてもらいたと思います。 あと道路に一旦出て、高台避難というのが、書いてはあるのですが、津波の場合、何メートル以上なら100%安全というのはおそくないと思います。どのような設定があったのか、その点を少しご紹介いただければと思います。

花島企画財政課長	この建設予定地は、県の津波浸水想定区域図によると、能登半島地震による津波で最大高さが５．２メートルと推定されています。現在、６メートルの津波を想定しており、２階や屋上への垂直避難と高台への迅速な移動で避難することを前提としています。しかし、想定を超える地震もあり、北陸電力の津波想定では１２．６６メートルと示されており、新聞にも出ていました。想定を大きく超える津波が発生する可能性があります。
山森副町長	少し補足させていただきますと、まず北陸電力の１２．６６メートルというのは原子力発電所前の地点で、机上で全部の断層が一気に動くという想定によるものです。机上の想定の高さを計算したときに、原子力発電所のプラント前で１２．６６メートルという数値を、原子力規制庁に説明したというものになります。それが実際に我々が想定すべき地震や津波の高さかどうかは、まだ誰も決めておらず、確定しているものではありません、というのがまず一点目です。 現地の敷地の高さは５．６メートルです。そこからすぐに津波が来る場合は垂直避難しかなく、垂直避難用の積み上げ高さは大体４メートルぐらいの階高で積み上げて、今１５メートルということなので、仮に北陸電力の１２メートルよりも結果的に高くなっているという状況になります。 大事なのは、津波の場合は高台へ避難することが最優先であるという点です。訓練などで子どもたちが確実に逃げられるよう、階段を整備して適切に避難させてください。間に合わない場合は上に逃げてください。基本は高台へ避難する想定です。
飯田学校教育課長	（その他 富来地域学校づくり準備委員会 組織体制（案）について） それでは最後に、その他として、教育長から準備委員会に関わる今後の予定についてご報告します。
参加者	その他にソフト面の大事な話があるんやね。私はこの進め方は反対です。１時間半かけて両面（ソフト・ハード）やらないと、１回目の会合を受けて皆さん２回目に来ているんです。だって１時間半の説明の中で、もう一つ大事なものはソフト面の準備委員会です。 第１回で私も教育長さんも町長等も確かに話をしたが、そのことが全然反映されていない。これを見ると今から説明すると思うけど、そうすると時間をオーバーするのではないかな。皆さんに諮って、折角、集まっているんだから時間をとって一番大事なことを、この学校をどうするのか、それを是非やってほしい。嫌なことを言ってすみません。
飯田学校教育課長	こちらの説明不足で申し訳ありません。
参加者	９月の準備委員会では遅いと言っている。それと教育長。１９日今日何の会議があったか知っているか。富来中学校振興会の総会だった。
間嶋教育長	申し訳ございません。
参加者	懇親会も断ってみんなここに来ている。教育委員会と現場はもっと連携を密にしていけないと。耳の痛い話をするが、是非、教育長にはこれから小・中学校、現場の人たちと教育委員会が一緒になってやらなければならないのに、ガチンコをしていて迷惑をかけている。 それからもう一つ、時間を確保してやるなら土曜日か日曜日だ。休みの出やすい日、教育委員会も休日に出てこないといけないから大変だけど、やはりそのくらい時間はとって町民に示してほしい。いらんこと言いましたが課長よろしく。

飯田学校教育課長	ご意見賜りました。
間嶋教育長	お疲れ様でございます。貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。準備委員会の今後の取り組みについて説明します。資料の一番最後のページにもありますので、そちらを開けてください。 今ほど、ご意見もございましたが、これまでの保護者会や住民説明会で皆様から、住民の声を聞いて学校づくりを進めていただきたい、地域の特色を生かしたカリキュラムなど、学校づくりに関わってソフト面の協議を早めに進めてほしい。また、継続的に意見交換できる協議会を開催してほしいなどの要望をいただきました。その点につきまして、先程、遅いという意見もいただきましたけれども、当初、令和9年の4月に発足を予定しておりましたけれども、その意見をいただきまして、現在、9月に発足する予定で検討を進めているところですので、その概要について説明します。また、準備委員会の名称は、地域全体で学校づくりを進める趣旨を大切にしたいと考え、「富来地域学校づくり準備委員会」としました。 次に、開校に向けた準備委員会とその下部組織として専門部会を4つ、総務、教育課程、PTA・地域連携、施設整備の4部会を設置することとしました。 準備委員会の設置期間は、令和9年から開校までの令和11年3月を想定しております。役割としては、開校に向け必要な事項の検討・調整を行い、学校運営、教育内容、施設整備に関わる基本方針を策定・徹底することです。 体系図には表記しておりませんが、委員の構成は、小学校・中学校及び保育園の保護者代表、学校長、保育園の所長、地域代表、小学校・中学校の学校評議員代表、学識経験者、議会議員代表などからなり、20名程度を予定しております。 専門部会は、開校に向けた業務を分担して調査・検討するものです。委員は小中学校関係者、小中のPTA代表者、地域代表で構成します。総務部会は主に校名、校歌、校規の制定など学校総務に関わることでございます。教育課程部会は教育課程や学校行事など、特徴ある学校づくりに関することを担当します。PTA地域連携部会はPTA関係や地域連携事業に関することを担当します。施設整備部会は施設、教材、備品など施設整備に関わることを担当します。 その下に示していますが、地域住民や保護者との意見交換会の場を設定し、情報共有を位置付けております。地域の特徴を生かした学校づくりについて、専門部会の協議内容を定期的に検討し、ワークショップ形式の意見交換の場を設けたいと考えています。保護者や地域住民の皆様にご参加いただき、例えば特徴ある学びや学校行事、地域連携事業、PTAのあり方などをテーマに協議し、保護者や地域の皆様とともに学校づくりを進めてまいりたいと考えております。 また、準備委員会や専門部会、ワークショップ等の情報、協議内容、資料、議事録などは定期的に準備委員会だより、町ホームページ等で公開し、住民の皆様との情報共有を進めたいと考えております。最後に、この後の予定ですが、なるべく早く、組織体制や運営面の詳細を決定し、7月から8月に各団体への説明と委員の依頼を行い、町議会9月定例会へ報告・説明したのち、第1回の準備委員会と各専門部会を開催したいと考えております。 このような形で、教育課程や特徴ある学校づくりについて、取り組みを早期に進めてまいりたいと思います。詳細が決まりましたら改めて説明会を実施し、その際にご説明いたします。私からは以上でございます。

参加者	こういう形で言いたくなかったんですが、町長さん、教育長も前回の第1回目の町民説明会でいろいろ話をして、教育長にお願いしたところ、7月から準備委員会を始めるという話でした。そして私が要望したのは、皆さんと同じで、令和9年から開校してほしいということです。校舎は先ほどの説明どおり11年に新築していただく。今私も聞いていて、羽咋のラクナ。何度も行きましたし、担当課長からも話を聞きました。本当に業者と市の担当の方といろいろ協議して、良いものができたと思います。私もそう思います。孫を連れて何回も行きましたが、本当に素晴らしいと思ってます。期待しています。それと同時に、校舎が完成しなければいけないと前にも言いました。小中一貫の義務教育学校はできないのか。現在は、残念ながら地震と一緒に住んでいるわけです。高校の校舎だから非常に都合が悪いのは分かります。門前は1年で開校しました。中学校の校舎です。小学校を2つ統合したもので、小中一貫にして三つの学校を合わせて1年でやったんです。その中身については全然聞いていないので分かりませんが、それだけのスピード感でもう進んでいるんですね。そして新聞に門前学校の行事の取り組みなどが出てきます。それを見ると本当に私は残念で仕方ありません。 本当に、私たちはもっとその先に検討委員会を設け、残念ながらコロナや地震で遅れましたが、少なくとも11年、3年まで待てと言って、現場の子どもや親に納得させられるでしょうか。その制度の良いところは取り入れて、都合が悪い点はあるとはいえ、なぜやらないのか。現在、学校に通っている子どもたちに、小中一貫義務教育学校の良さを、もちろんデメリットもありますが、良いところだけを取り入れて、何とか進めてください。本当に私もいつまで生きているかわかりません。もう80近くになりました。富来の子どもたちにやはり未来や希望を持てるような学校に、今から準備段階として校舎の準備はもちろん、制度の良さを生かして進めてほしい。本当に心からそう思う。 今回は保護者の説明会がなかったのも、そういう意味で皆言いたいことがたくさんある。町長さん、教育長さん、私だけでなく皆さんの思いを何とか実現してください。9月じゃあ本当に4月から開校できるのでしょうか。本当に難しいと思います。教育長さんは、4月開校のつもりで進めるつもりでしょうね。
稲岡町長	これまでの説明会でも同様のご意見をいただいていたと思いますが、先ほどのご意見があったから準備委員会を前倒して設立することにしたわけで、決して意見をまったく取り入れていないわけではないことをまずご理解いただきたいと思います。それと冒頭にお話ししましたし、先ほどのご意見のとおり、高校の校舎を小学生が使っている現状は何かしなければなりません。冒頭の話どおりですが、今回はまずハード面を早く整備することが主な説明事項になります。今回の説明会はそのためのものです。 ハードに特化した説明会になりましたが、準備委員会の中でソフト面は今後進めていけばいいと私は思っています。4月開校が現実的かは分かりませんが、ハード以外の面で早く開校する方法もその中で検討していけばいいと思います。冒頭で話したとおり、ワークショップ等もその委員会内で開催しますので、そこでもっと時間を作っていただいてお話しいただければいいかなと、私個人的には考えております。この続きは教育長に渡します。
間嶋教育長	ただいま町長からもありましたが、今回の説明会は設計面に限って説明し、保護者や地域の皆様からの意見を今後の設計に生かすという趣旨で開催しました。準備委員会については先ほど説明しましたが、まだ検討中です。中身が決定

	次第、ソフト面の説明会の場を改めて時間をとって設定する形で分けて説明したことが1つでございます。 それから義務教育学校の早期の移行の件ですが、その件に対して、教育課程や特色ある学校づくりを十分な時間をかけて進めてほしいという意見も多くあります。そういった2つの点については、義務教育学校の移行時期について町長と協議し、移行時期は開校として11年4月と考えております。理由の一点目は、新校舎の建設が関わってくることです。 先ほどご意見がありましたが、門前中学校では施設の被害が少ない状況です。また、門前中の施設には小学校の子どもたちが十分入るキャパシティがあります。富来小中の場合は校舎が大きく被災しています。今、小学校が手狭になっており、非常に窮屈な状況です。キャパがありません。そのため新校舎を建設することになりました。新校舎を建てる前に義務教育学校に移行すると、その校舎を使って義務教育学校ができるという形ができてしまいます。そうしますと、これから建設に入りますが、補助金の面で、国からの補助金が、義務教育学校が出来た場合、補助金が難しくなるのではないかとという危惧があります。それが一点です。 それから早急に義務教育学校の形を作る一方で、保護者の方々からは、教育課程や特色ある学校づくりについて時間をかけて進めてほしいという意見もいただいております。 従いまして、準備委員会をきっちり作り、保護者や地域の方にも入っていただいて学校づくりを進めていきたいというのが一つです。中身をしっかり作ってから、義務教育学校に移行するということです。 現実的に施設一体型の小中一貫教育学校になっております。そうした場合は、前回の説明会で参加者がおっしゃっていましたが、例えば教員配置の面で校長は2名、それから養護教員とか、教員の配置に余裕がございます。そういう余裕がある形で、先生方の配置の面でも手厚い支援ができるという形ですので、引き続き2年間は施設一体型の小中一貫校という形で進めていきたいと教育委員会では考えております。 ただ、現実的に令和6年度から中学校に小学校が入っておりますので、令和6年度からできることは順次、教育課程や学校行事、PTAの関係も順次進めております。施設一体型の小中一貫という形にさせていただいて、その中で富来義務教育学校の教育課程や特色については、準備委員会ですっかり議論を重ね、富来にふさわしい学校を作っていきたいと考えています。令和9年、令和10年は現状の施設一体型の現状の一貫校とし、移行は開校と同時の令和11年4月として教育委員会として考えていますので、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。
参加者	町長の話と違うが。町長はできるだけ早くなんとかしたいと言っている。仮校舎では制度は導入できないのか。なぜできないのか。
間嶋教育長	制度は導入できますけれども、今の被災している校舎で義務教育学校に移行すると、そこで富来の義務教育学校は出来上がってしまいますから、新しい校舎は要らない。
参加者	それはおかしい。創意工夫をしながら、義務教育学校をハード面ができるまで待つて、子どもたちを育てる。
間嶋教育長	それがこれから行う準備委員会です。

参加者	それが遅いと言っている。
間嶋教育長	遅くなりましたけれど、しっかりと進めます。
参加者	一番の問題は、あなたの技量を問うているということです。あなたはどのような学校をつくるのか。町長さんは無理だ。町長になって間もないから。 あなたは令和5年の時から中高一貫の担当をやってきたわけでしょ。町長さんは判断できるはずがない。もう一度聞きたいのは、あなたはどんな学校を作りたいのか、どんな子どもたちを育てたいのか、それを聞きたい。
間嶋教育長	それは、私もふるさと富来でございますので、富来の子どもたちが未来のあるしっかりとした子どもたちを育てたいと考えております。
参加者	えげつないことを言いますが、綺麗ごとはどうでもいい。本当ですよ。もう2年半が経ちました。皆さんここにおられる方々は、本当に素晴らしい子どもを育ててほしいと言っている。
間嶋教育長	その思いは教育委員会も全く同じです。
参加者	あたりまえだ。本当に。どこで目を覚ますんだ。
参加者	先ほど私の名前を教育長が出されましたが、加賀市の教育改革が素晴らしく、全国的にも注目されている。私は教育長のような教育のベテランではありませんが、それを見ると9年間の教育は高校を前提に積み上げている。高校は何を目的にしているかというところと大学ですね。そうしますと今、小学校の4年生くらいからコンピュータなど技能をもった子たちを養成してきている。最後に行きつくところは、センター試験に情報という科目が入れられるんです。そこに向かって教育を出されている。 それが今、1年遅れれば富来の子たちは遅れる。そういう不利益が出てくるので、早くしてください。それ以外の何物でもないです。ですから、本当に大変かもしれないが色々工夫して、そこに持っていかなければいけないし、現実には現場の先生方がいらっしゃる。現場の先生と地域が連携する。そういうものを結んで、地域の人達がこの学校を育て上げていく。そういうことをやんなきゃいけない。それを明日からでもやってほしいということなんです。加賀市の取り組みを参考にさせていただきたい。
間嶋教育長	準備委員会でしっかり取り組んでいきたいと考えております。
飯田学校教育課長	本日は活発なご意見をいただき、ありがとうございました。 この後は、今回の件に限らず、本日の次第の裏にQRコードを印刷してありますので、そちらでアンケートによるご意見を受け付けます。受付期間は7月15日までとなっておりますが、皆様のご意見をお待ちしています。以上で説明会を終了します。 お帰りの際は忘れ物のないようお気を付けてお帰りください。ありがとうございました。